

平成28年度 学校自己評価表 (実施段階)

福岡県立鞍手竜徳高等学校長 印

学校運営計画 (4月)		評価 (3月)				
<p>学校運営方針</p> <p>教職員が一丸となり組織的に生徒に基本的な生活習慣と学習習慣を身に付けさせ、生徒一人一人の進路実現を図るとともに、自らの志に向かって意欲的に学び、自律心と思いやりの心を持つ生徒の育成を目指す。</p>						
<p>昨年度の成果と課題</p> <p>1 学校運営方針に基づき職員の協働の結果、学校全体が落ち着き、遅刻・欠席が大幅に減少し、転退学者数、問題行動数も大幅に減少した。今後も積極的な生徒指導により、基本的生活習慣の定着や心の教育の充実を図っていく。</p> <p>2 授業改善に向けた取り組みを行うことにより、幅広い学力層の生徒への指導力向上を図ることができた。今後も研究授業やアクティブラーニングやICTを使った授業に取り組み、学力充実に努める。</p> <p>3 総合的な学習の時間、特別活動をとおり、生徒に自尊感情の高揚が見られる。今後、学校行事及びボランティア活動、部活動等の成果を積極的に地域社会に発信することにより、開かれた学校づくりを推進し、保護者や地域から信頼される学校を目指す。</p> <p>4 生徒の自己実現を可能とする「生きる力」を育む取組は、人権教育の重要な柱である。教科指導、生徒指導、学級経営など、その活動の全体を通じて、人権が尊重される「学習活動づくり」「人間関係づくり」「環境づくり」に取り組む。</p> <p>5 総合学科高校として良き学校文化が生まれつつある。生徒、保護者、教職員、地域、同窓会が心を一つに、更なる飛躍を目指す。</p> <p>6 地域の中学校卒業生数は急激に減少しているが、地元中学校との信頼関係は強固になりつつある。地元企業との協力関係も活用し、社会に貢献できる人材育成に努める。</p>		<p>年度重点目標</p> <p>1 授業の充実に努めるとともに、生徒に自学自習力を身に付けさせ、確かな学力を育成する。</p> <p>2 総合学科の各系列の特色を生かした資格取得の充実を図る。</p> <p>3 特別な支援を要する生徒の教育的ニーズに対応する。</p> <p>4 学校教育活動全体を通して、生徒に規律を守らせ、節度ある生活態度を身に付けさせる。</p> <p>5 心身を鍛え、何事にも粘り強く果敢に挑戦する生徒を育成する。</p> <p>6 生徒の能力と適性を最大限に生かすような進路の実現に努める。</p> <p>7 人権教育を推進し、人権に関する意識、態度、実践的な行動力を育成する。</p> <p>8 学校行事や広報活動により、地域から信頼される学校づくりを行う。</p> <p>9 教育相談の環境を充実させ、明るい学校づくりに努め、いじめを撲滅する。</p>				
		<p>具体的目標</p> <p>ア 授業規律の徹底を図り、わかる授業、興味・関心を持つ授業を展開することにより基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。 イ 教科・学年等が連携し、組織的に成績不振生徒に対する学習支援の徹底を図る。 ウ 学習指導要領のねらいを実現するため、各教科において単元または題材ごとの目標を設定し、評価方法や指導方法の改善を図る。 各系列の学習内容の特色を生かした実習や課題研究の充実に努め、社会で通用する資格取得のための指導を積極的に進める。 特別支援教育に関して、全職員の共通認識を図る。 特別支援教育に関する研修の充実を図る。</p> <p>きめ細かな生徒指導により、基本的生活習慣の徹底を図るとともに、全職員の共通理解による生徒指導体制を確立し、規範意識の高揚を図る。</p> <p>生徒会活動・奉仕活動や部活動を充実させ、集団への帰属意識を育て、社会性やコミュニケーション能力の基礎を培い、自尊感情の育成を図る。</p> <p>系統的なキャリア教育の充実を通して、生徒の進路意識を高めるとともに、生徒が主体的に進路実現を図れるよう支援を行う。</p> <p>教育活動全体を通じて、人権教育を推進し、人権が尊重され、一人一人が大切にされていることを実感できる学校づくりを行う。</p> <p>ア 地域と連携した活動の充実に努めるとともに、ホームページをはじめとする広報活動を積極的に進め、地域に信頼される学校づくりを目指す。また、関係中学校、行政、企業等との連携を図り、地域に開かれた学校づくりを推進する。 イ 学校行事・部活動・ボランティア活動をとおして、生徒、職員、保護者、同窓会の連携を深め、鞍手竜徳高校としてのスクールアイデンティティを高める。 ア 月1回「いじめに特化したアンケート（無記名または記名）」または「学校生活アンケート」を実施し、いじめの早期発見に努める。 イ いじめ問題対策委員会や教育相談事業を活性化させ、職員間における情報の共有と共通理解を図り、不登校や中途退学の防止に努める。</p>				
		<p>めざす学校像</p> <p>1 生徒一人一人が確かな志を持ち、夢や希望の実現に向かって挑戦する学校</p> <p>2 人間としての基礎基本を身に付けさせ、鞍手竜徳生としての自信と誇りを持つ生徒を育成する学校</p> <p>3 豊かな心と健やかな体を持ち、生涯にわたって逞しく生きる人間を育成する学校</p>				
		<p>めざす生徒像</p> <p>1 基礎基本を習得し、それを活用する生徒</p> <p>2 心身ともに健康で、思いやりや感謝の言動がとれる生徒</p> <p>3 自他の生命を大切にし、決して「いじめ」を許さない生徒</p> <p>4 高い規範意識を持ち、規則を遵守する生徒</p> <p>5 最後まで粘り強く挑戦する生徒</p>				
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価 (3月)	次年度の主な課題		
学務部	教務課	1 基礎基本を身に付けさせるための積極的指導	1 「基礎学力定着テスト」を年16回実施し、生徒に学習の習慣をつけて、成績下位層を10%減少させる。 2 生徒部、学年と連携し、遅刻を昨年度より10%減少させる。 3 ICT、ALの手法を積極的に活用した授業を推奨し、生徒が「わかる授業」を教職員全体に浸透させる。 4 「知識理解」偏重型の評価から脱却するため、全教科において「観点別評価」を用いた評価を推進する。 5 早めの指導で未履修・未修得科目で終わる生徒をなくし、全校生徒が全科目修得を目指す。	A B A A A	A	「基礎学力定着テスト」は、予定回数より少ない実施に留まったが、生徒はある程度、学習習慣の定着に成果が上がったため、次年度も教科と最善の方法を模索しながら継続する。新学習指導要領を意識して、「観点別評価」の在り方を確立し、ICT、ALの手法を今年度以上活用することで授業の質の向上を推進する。
		2 円滑な分掌業務の遂行	1 定期的な部会議を開き、課同士の連携を図る。 2 情報管理課と協力し、教務支援システムの円滑な運用やクラッシーの活用を推進する。	A B		
	庶務課	1 円滑な分掌業務の遂行	1 学校運営関係とPTA関係との効率的な業務分担を図り、円滑に業務を遂行する。	A	A	
		2 PTA活動の活性化	1 各委員会の自主的活動を重視した委員会日程や役員日程を調整し定める。 2 PTA活動の充実に努め、保護者からの理解と協力体制の強化を図る。 3 各委員会活動において、担当教員が委員長との連絡を密にし、活性化に努める。	A B B	B	
		3 同窓会活動の活性化支援	1 同窓会活動に積極的に参加し、組織確立のために協力する。	A	A	
	研修図書課	1 職員研修の充実	1 本校の授業力向上を図るため、授業研究会を発足させ、授業研究を活発にする。 2 研究協議会の内容を充実させ、参加者を増やす。 3 意見交換が活発に行われるような研修を企画し、集団としての活性化を図る。	B B A	B	
		2 中学生への広報活動	1 中学生体験入学の内容の充実を図る。 2 進路相談事業へ参加し、内容を充実させる。	A A	A	
		3 読書に親しむ姿勢の充実	1 図書館の環境整備や啓発活動を司書と協力して行う。	A	A	
	情報管理課	1 広報委員会との連携を図った、広報活動の充実 (HP・竜徳ニュース)	1 広報委員会との連携を図り、ホームページ・竜徳ニュースの質を向上させ、閲覧数の増加を図る。 2 教職員と情報を共有し、部活動大会予定など、HPに掲載すべき内容をもれなく更新する。	B A	A	
		2 公務用パソコンにおける作業の効率化	1 教務支援システムの運用を円滑に行い、教員の事務負担を減らす。 2 教科コマの入力などのEXCEL表の簡素化を図る。	A B	A	
		3 授業におけるICT機器の活用・ALの頻度を高める。	1 研究授業におけるICT・ALの活用を推進し、その活用方法を検討・整理する。 2 Classiの円滑な活用を図り、効果的に使用できるように整備する。	A C	B	

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題
生徒部	生徒指導課	1 人権教育、いじめ防止の観点から、授業規律及び基本的な生活習慣の確立を図る。	1 授業規律の徹底を図るため、授業参加態度が著しく悪いと判断された生徒に対し、生徒指導課が中心となり指導の強化を図る。 2 学校生活を中心とした基本的な生活習慣を身に付けさせるため、昨年同様「遅刻欠席者指導」を継続すると共に、アルバイト規定について大幅な見直しを図る。	A	A	全体的に学校を中心とした基本的な生活習慣や授業規律は身に付いているが、一部の生徒に対する指導法の改善が必要である。バイク通学に関して、地域からの苦情は減っているが、まだまだ無くないため、交通安全教室等の実施を継続し、規範意識等を高めていく必要がある。部活動については、加入率や大会実績等を含め活性化
		2 交通安全指導の強化による規範意識の向上	1 自転車・バイク通学者の安全対策として、冬の制服用時に学校指定のウィンドブレーカーの着用を義務付ける。 2 バイク置き場の整備に伴い、その利用法の確立を図ると共に、交通ルール的重要性や集団の一員としての自覚、生徒一人ひとりの規範意識を高める。	B	B	
		3 部活動の活性化及び地域貢献活動の充実を図る。	1 部活動加入率60%を目指すと共に、部活動集会等を実施し、部活生としての自覚と意識を高める。 2 地域貢献活動の一つとして、「物品販売会」を実施する。	A	A	
	保健環境課	1 健康管理および安全管理の推進。	1 教職員、生徒の応急手当、救急救命研修を実施する。 2 スクールカウンセラー、訪問相談員、スクールソーシャルワーカーとの密な連携を図る。 3 保健室利用に関する教務支援システムの活用と情報提供を行う。	A	A	
		2 環境美化意識の推進。	1 日々の清掃意識の喚起し、校内美化に勤める。 2 掃除用具の点検と整備。 3 ごみの分別の周知徹底およびごみの減量化に努める。	B	A	
		3 生徒会活動としての保健、美化委員会の活性化。	1 保健委員長、美化委員長を育成する。 2 保健委員会を中心とした定期健康診断の円滑化を図る。 3 美化委員会を中心とした美化活動の意識の向上を図る。	C	B	
進路部	進路指導課	1 1・2期生の進路実現	1 学年・クラス担任との連携を密にし、生徒の進路に関する情報を共有する。 2 生徒の実態や社会情勢に応じて、適時性に配慮し情報を発信する。 3 面接指導企業訪問を学校挙げて計画し実施する。	A	A	外部講師を招いての進路セミナーは生徒が緊張して臨むことができていない。就職・進学の試験において成果が出ているので来年度も実施したい。全職員で実施した面接指導や企業訪問は、生徒の進路意識の向上にもつながっているため、次年度も実施していく。面接指導については応募先企業を明確にし、次年度も企業のパンフレット等を生徒に持たせるようにし、面接指導がスムーズに行えるようにする。様々な情報を進路から提供しているが、それらの情報が全職員に伝わっていない点がある、来年度に向けて情報提供の方法について検討する。科目選択については、次年度も学務部・各教科と連携しミスのない科目選択を実施する。また、来年度も系列の授業見学並びに体験授業を継続して行う。科目選択における人数調整の方法及び自由選択科目について学務部と連携し検討する。キャリア教育の充実を図るため、産社・総学の年間行事の見直しを行う。学校の特色を生かした総合学科発表会を目指し、
		2 各学年の進路指導の充実	1 1年次生の全員課外を継続し、課外の欠席者等の指導を学年中心に協力して行う。 2 2・3年次生の課外は資格取得資格取得課外を課外も含め年間を通したプランを提示する。3年次生では夏季休業中の課外から就職と進学に分ける。 3 各学年の進路行事の定着を図る。 4 進路の手引きを7月までに発刊し、進路に関する情報を提供する。	A	A	
		3 進路関係行事の充実	1 キャリア学習課と連携し進路ガイダンスの充実を目指す。 2 校内外模擬試験を、学年の実情に沿った効果的な時期・内容実施する。 3 外部講師や卒業生・3年次生の体験談の発表を行うことにより、1・2年次生の意識の向上を図る。 4 外部団体との連携は継続し行う。面接指導、講演等を含めて新たな展開を模索する。	B	B	
	キャリア学習課	1 「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」の円滑な実施と運営	1 学習内容を明確にし、会議等を適宜実施することで教員間での共通理解を図る。 2 「産業社会と人間」において、キャリア教育の柱に合った学習を検討・実施し、進路選択に向けての情報提供をする。 3 2・3年次の「総合的な学習の時間」の時間数変更に伴う年間計画の見直しをする。	A	A	
		2 科目選択に向けたカリキュラムガイダンスの充実	1 教務課と連携し、カリキュラム作成のための準備と科目群の作成、時間割の見直しをする。 2 科目選択を充実させるための、カリキュラムガイダンスの学習内容を検討し、ミスのない科目選択を実施する。 3 学年ごとに職員に対する科目選択における事前ガイダンスを実施する。	B	A	
		3 鞍手竜徳高校の目指す教育を盛り込んだ、地域への情報発信の充実	1 調査広報と連携を図り、地域や中学校への広報に生かす。 2 「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」の学習内容を踏まえ、各系列の特色を生かした総合学科発表会を実施する。 3 ホームページ等を活用し、学校行事や学習内容の発信を充実させる。	B	B	
人権・同和教育部	1 教職員研修の充実	1 教職員全員が、校外の研修会(学習会)に少なくとも2回は参加する体制を作る。 2 校内研修について、研修図書課との連携を図り外部講師を招聘する。(2回) 3 拡大会議で生徒情報の交換を徹底する。(複数回)	A	A		
	2 人権・同和教育授業、ホームルーム活動の充実	1 ホームルーム活動の学習内容の充実を図る。年4回、各学年で指導案を作成する。 2 ホームルーム活動の事前学習会および事後の反省会の充実を図る。 3 人権教育学習教材資料「あおぞら」の活用を進める。	A	B		
	3 自主活動支援および修学支援の推進	1 人権研究会(部活研・朝文研)の活動を支援する。 2 学方支援の取組み等、教務課、学年との連携を図り転退学者数を減らす。 3 入学時からの継続的な相談事業を充実させる。(合格者説明会、物品販売日、入学式等々)	B	B		
第1年次	1 基礎学力の保障	1 基礎学力定着テストに向けて家庭学習を真剣に取り組みさせる指導を行う。 2 考査前、科目担当の先生と連携して学年で学力向上の指導を行う。 3 「産業社会と人間」で進路実現について考えさせ、基礎学力定着の必要性を再認識させる。	B	B	新しい試みである基礎学力定着テストの補講の方法等の反省を行い、2年次からは基礎学力をより定着させる工夫をしていかなければならない。竜徳生として基本的な学校生活を継続して送れるように次年度も粘り強い個別指導や、効果的な全体指導を行う必要がある。今年度は学年全体で人間関係のトラブルが多くあった。次年度はクラス替えがあるため年度当初より、人間関係を大切にしたい。思いやりの心を育む取り組みを考えなければならない。	
	2 基本的な生活習慣の確立と継続・基本的マナーの理解と向上	1 学校に来て授業を真面目に受ける等学校を中心とした生活習慣を1学期間で身に付けさせ、継続させる。 2 気持ちの良いあいさつや丁寧な言葉遣いなど、基本的なマナーを身に付けさせる。 3 学校外で竜徳生として恥ずかしくない態度が取れるように、学年集会等で指導していく。	B	B		
	3 思いやりをもった生徒の育成	1 「人権教育授業」で自分を見つめなおさせる授業を展開し、心の成長を図る。 2 授業やHRでグループ活動の積極的参加を促し、他人を尊重できる豊かな心を育ませる。 3 学年団が生徒に対して愛情を持って接することで、学校を大切にしたい愛校心を育ませる。	B	B		
第2年次	1 集団・個人として、社会に出て評価される挨拶ができる生徒の育成	1 授業の開始・終了時には椅子を中に入れて挨拶をすることを定着させる。 2 生徒の見本となるような挨拶を教員が行い、指導を行う。 3 集会・式典時での礼法・マナーを理解させ、徹底して指導を行う。	A	A	一年次より規律ある集団を目指し、二年次でも引き続き集団としての在り方を徹底して指導できた。その2年間を三年次では学校のリーダーとして、先輩に示せる形で学校生活を過ごさせなければいけない。また、集団全体を指導しつつ、リーダーの育成にも取り組んできたので、そのリーダーとなるべき生徒が、行事やあらゆる学校生活で活躍できるように指導したい。しかし、女子のリーダーが乏しいので、女子のリーダーの育成は三年次に向けての大きな課題である。	
	2 基礎学力の定着	1 基礎学力定着テスト16回を全員合格するよう粘り強く指導する。 2 年度末、未履修・未習得科目をゼロにする。 3 ホームルームでの小テストや試験前勉強等を実施し、学習習慣の確立を図る。	A	A		
	3 遅刻・欠席の更なる減少	1 ホームルームで遅刻者・欠席者に対する指導を徹底する。 2 毎朝累計データを提示し、現状に学年団で共通認識を持つ。 3 遅刻・欠席者に対して確実に保護者に連絡を取り、学校・家庭の両面から遅刻・欠席の減少に取り組む。	B	B		
第3年次	1 最上級生としての自覚と責任を持ち、一集団としての言動や行動をとることができる生徒の育成。	1 学校行事や集会で他学年の模範となる行動を心がけ、自分勝手な言動や行動をさせよう指導する。 2 日々の学校生活を大切にしたい気持ちを育み、鞍手竜徳高校を誇りに思う心を育む。	A	A	最上級生として模範となることを2年次の終わりから指導することで、スムーズに3年次をスタートすることができた。進路実現に向け、1年次から指導に力を入れてきた遅刻・欠席指導や学習面に対する指導を継続することで、学校の指導に素直に従う生徒が多く、自らの進路実現に向け努力する姿が見られた。生徒の模範なる大人として、職員全体が素早い行動を心がけることで、時間厳守の徹底ができた。1年次より計画的な指導を行い、職員間の連携	
	2 思いやりと優しさを持ち、生徒間・生徒と教師間で互いに尊重できる人間関係の構築。	1 生徒の言動や行動に注意喚起し、学年職員全体で生徒の情報共有を図る。 2 身近な大人として模範となる姿で教育活動に取り組み、生徒への思いやりの心を忘れない。 3 友達を思いやり、協力する力を身に付けさせる。	B	A		
	3 規範意識を高め、社会に貢献できる力を身に付けた生徒の育成。	1 挨拶や時間厳守、ルールを守ることで、規範意識を高める。 2 何事にも積極的に取り組み、自ら進んで行動できる力を育む。 3 素直さと謙虚さ、感謝の気持ちを育み、社会に出て必要とされる人材の育成に努める。 4 1・2期生、1・29名全員の進路実現100%。	A	B		